

2020年1月～3月展示・館員おすすめの本

婚活狂想曲



婚活ブームといわれて久しい今日この頃、婚活をテーマにした本も多く目にするようになりました。入門書、実践書など様々ありますが、特にお勧めなのが小説。恋愛を超えた悲喜こもごもの人生がつまっております、婚活中の人はもちろんのこと、そうでない人も充分楽しむことができます。あなたも婚活のめくるめく世界をのぞき見してみませんか？

(大久保美玲)



辻村深月『傲慢と善良』朝日新聞出版 2019

坂庭真実と西澤架は婚活アプリで知り合い2年の交際期間を経て婚約。しかし真実はある日突然、架の前から姿を消します。ミステリー要素も満載でクライマックスは手に汗握る謎解きが展開します。読後は作品中に出てくるジェーン・オースティン『傲慢と偏見』もきっと読みたくなるはず。

山内マリコ『あのこは貴族』集英社 2016

渋谷区松濤で代々開業医を営む家系の末娘華子と、田舎から上京し荒波にもまれながら生きてきた美紀。華子の婚活奮闘記を中心に、彼女を取り巻く上流階級の生活や、女性が社会に出て自分一人の力で生きていく上で受けるであろうあらゆる困難が生々しく描かれ非常に読み応えアリ。あらゆる世代の女性にオススメです。



上原愛加『あなたがあなたのためにできる最高のこと』PHP 研究所 2016

婚活はその期間が長引くにつれ、無力感や挫折感を味わい心身共に疲弊していく人が多いそう。そんな時は原点に立ち返り、まず「自分をお姫様のように大切に扱う」ことで流れが変わると本書は教えてくれます。自分に魔法をかける方法が具体的に挙げられており、そのうちの1つを試してみるだけでも不思議と気分が軽やかになります。



【婚活小説】

ジェーン・オースティン『傲慢と偏見』上・下 岩波文庫 1994

角田光代『くまちゃん』新潮社 2009

南綾子『ぬるま湯女子会、38度』双葉社 2016



【入門書】

山田昌弘編著『「婚活」現象の社会学』東洋経済新報社 2010

香山リカ『結婚がこわい』講談社 2005

【実践書】

水野敬也『スパルタ婚活塾』文響社 2014

ぐっどういる博士『男が本当に考えていることを知る方法』高陵社書店

2006

